

荒天時(猛暑・雨・雷等)におけるJCAガイドライン・ジュニアクリケット

更新日: 2020年8月14日

猛暑時におけるガイドライン

クリケットは夏のスポーツです。そのため、猛暑の中での試合が予定されることは避けられません。試合に関する決定はアンパイアも関与し、チームマネージャーが責任を持って行うものとします。試合オフィシャルやチームオフィシャルとして、関係者全員が注意義務を負い、怪我などにつながる可能性のある予見可能なリスクを最小限に抑えるために、あらゆる手段を講じること。

1. 試合中止

マネージャー同士が協議の上、猛暑時の試合中止の決定するものとする。中止決定における手続きは以下の通りとする。

1. JCAまたは大会委員会が中止を発表した場合は、試合を行わないものとする。
2. 当日の朝5時に発表された天気予報で最高気温が35°C以上と予想される場合は、両マネージャーは試合の中止を検討すること。
3. 両マネージャーが上記2.の天気予報を確認した後、どちらかのマネージャーが試合の中止を希望する場合には、お互いに連絡(電話)して協議すること。試合中止の決定は、原則として午前6時(試合開始時刻が午前の場合)または午前9時(試合開始時刻が午後の場合)までに行うこと。なお、どちらかのマネージャーが試合の中止を希望した場合、試合は中止するものとする。
4. 試合が中止になった場合には、両マネージャーが責任を持って(連帯責任)、アンパイア及び大会委員会に早急に連絡すること。

2. オーバー数を減らす

両キャプテンはお互いに協議し、アンパイアと相談の上、猛暑時には試合のオーバー数を減らす決定をするものとする。オーバー数を減らすための手続きは以下の通りとする。

1. 必須条件として、試合当日午前10時の気温が30°C以上であること。
2. T20の試合では、トスの際に両マネージャーがオーバー数を減らすことを希望する場合には、アンパイアと相談の上、1イニングにつき18オーバーに減らすことができるものとする。猛暑のため、トスの際にオーバー数を減らすことができるのはこの場合のみとする。十分なドリンク休憩を取りながらも、180分以内に試合を終了するようにするために、このオーバー数削減を行う。

3. 猛暑による試合の延期、途中終了

試合開始後は、アンパイア及びマネージャーが常に暑さの状況を確認すること。猛暑による試合の延期、途中終了、または、ドリンク休憩の回数を増やすかの判断は、以下の表を目安としてアンパイアの責任で行うものとする。

(気温の単位は摂氏)

外気温	相対湿度	熱中症リスク	アンパイアとマネージャーが取るべきアクション
24 - 28	70%以上	低い～中程度	警戒を高め、選手を見守ること。
28 - 31	60%以上	中程度	ドリンク休憩を増やす、特にバッターの状態に注意を払う。
31 - 35	50%以上	高い～とても高い	ほとんどの人が不快に感じる気候。気温が下がるまでの試合延期を検討する。
35+	30%以上	極めて高い	試合中止を検討。

雨天時におけるガイドライン(グラウンドコンディション)

1. 一般原則

1. JCA または大会委員会が試合を行わないと発表した場合は、その試合は行われぬものとする。
2. 試合当日の朝、マネージャーが試合を行わないことに同意した場合には、その試合は行われぬものとする。
3. 試合中の天候状況やグラウンドが試合に適した状態かを判断するのは、原則としてアンパイアのみとする。
4. 試合が開始された後は、マネージャーとアンパイアは可能な限りプレー時間を確保することを目指すこと。
5. アンパイアは、天候状況やグラウンドが試合に適した状態かの判断を行う際には、同じような条件の下で試合が中断されるようにすること。

2. アンパイア用コンディション判断ガイドライン

(1) ピッチ

確認する点	基準	試合続行/中止の判断	その他の注意点
ウィケットの湿り気を確認	バッスマンは滑る危険性があるか？	選手に危険が及ぶ場合は中止	
ボウラーのデリバリーストライドとフォロースルー周辺の湿り気を確認	ボウラーが普段通りにランアップし、アクションをとった場合に滑る危険性はないか？	ボウラーの安全性が危ぶまれる場合は中止。ポッピングクリースの後ろ約3メートルからその向こう約3メートルと、左右約3メートルを確認。	ボウラーが投げる場所(テイクオフエリア)が濡れている場合は、踏み込む足の膝を損傷する危険性があります。着地する場所が濡れている場合は、前足やフォロースルーする足が滑ると、足首や足の関節の損傷につ

			ながる可能性があります。また、ボウラーは安全に停止できることやデリバリー後に方向転換できることを確認してください。
--	--	--	---

(2) フィールド

確認する点	基準	試合続行／中止の判断	その他の注意点
フィールドの水溜りを確認	バッツマンがセカンドランをする際に危険な状態にないか、又はフィールダーがボールに向かう際に安全に走ったり、止まったり、方向転換することができるか？	フィールドは選手が走ったり、止まったり、方向転換する「交通量の多いエリア」です。フィールドに水溜りがある状態で、こういったことできるとは思えません。このような場合には、通常は試合をすることはできません。	フィールドに少しでも水溜りがある場合には、試合をすることができない可能性が高くなります。フィールドが泥地のような状態、または親指を第一関節まで押し込むことができる状態の場合も同様です。
フィールド上の濡れている場所や湿っている場所を確認	バッツマンがセカンドランをする際に危険な状態にないか、又はフィールダーがボールに向かう際に安全に走ったり、止まったり、方向転換することができるか？	選手に危険が及ぶ場合は中止	

(3) アウトフィールド

確認する点	基準	試合続行／中止の判断	その他の注意点
アウトフィールドの重点箇所の水溜りがあるか確認	フィールダーが安全にアウトフィールドを走り回ることができるか？ ボールはアウトフィールドを抜けることができるのか、又は水溜まりの中で止まってしまうのか？	通常、アウトフィールドの重点箇所が湿っている場合のみ、試合を中止とします。	沼地のようにになっている又は大きな水たまりがある場合には検討してください(こういった状況でも回避策がある場合も多くあります)。
ボウラーのランアップが濡れていないか確認	ボウラーが安全にボールを投げることはできるか？	ポッピングクリーズエリアが硬く、濡れた靴を履いていると「スケート場のような状態」になる場合には、安全にプレーできるようにするまでは、試合を始めてはいけません。	この場合には、フロントフットエリアを削ったり、草を刈り取るなどの回避策があります。

雷に関するガイドライン

マネージャーまたはアンパイアが稲光を見た後、30秒以内に雷の音が聞こえた場合には、試合を中断すること。このような状況で試合が中断された場合には、少なくとも30分以上、稲光が見られなくなるまで試合を再開してはならない。